

若君○義勝御誕生永享六年寅甲二月九日寅刻○中御産所之御具足色々給注文○中

一御蚊帳 御紋鶴龜同御竿金物白在之

御蚊帳は御出生之御所様御蚊屋也御あつらへの御蚊屋御還御之時分遅參間私給此御蚊屋借めさるゝと云々頓て私へ被返下處也

〔雍州府志七〕蚊帳 中華所謂蚊幃也、以青布裁縫之、或以紗造之、凡其大小廣狹隨所欲而無不有矣、三條東洞院至京極邊多有之、凡蚊帳限幾布幅、或稱幾布幅、又限疊幾帖、故謂何疊釣蚊屋、屋之四隅角掛環鈎、著緒而釣蚊帳四隅角是謂釣手、

〔後松日記十二〕蚊帳製作井用様

條々聞書云、御かてふは水色、角水引は段子、さほ黒うるし、かぎ赤銅、略女中の御かてふは、二ツつられ候、一ツは水ひき、角ともにあかき段子水色、さほ黒うるし、かぎめつき、一ツは梅ぞめ、水引角共に黒きしゆす、さほ黒うるし、かぎ赤銅、略年中恒例記云、○中貞助雜記云、殿中御蚊帳つり申候事は、蚊いでき申時分、陰陽頭に申、御蚊帳つり申候日時勘文進之候、伊勢兩人下總守貞仍肥前守盛惟參勤、ちかき頃は貞遠參勤申也、毎日のあげおろしは、女中上らふの御役也、また八月中に撤却の日時、陰陽頭勘文進上の日、兩人祇候いたし、おろし申てひつゝりと申て、何にてもかり初につられ候而、九月中まで引つりにて御座候、貞孝朝臣相傳聞書云、蚊帳の事、四月卅日よりつりはじめ、八月卅日までにて候、九月朔日より取置候也、武雜記云、蚊帳のおもしは、くろがねを細く打ておかれ候、○中これにて人を打擲する事の古事あるよし申ならひしなり、

考ふるに、蚊屋の名は、延喜太神宮式云、○中太神宮延曆儀式帳云、○中云々、かくふるきよにみえぬれど、またこと書には、さらにみえねば、多くは用ひぬなめり、さて蚊をばいかゞはしてかさけつらん、清少納言がいひしごと、細ごえに名のり來る、いとくうるさきものなり、もとよ